

1 単元 「お金紹介カードを作ろう」(金銭処理)

2 単元目標

- 1円玉5個と5円玉, 10円玉5個と50円玉, 100円玉5個と500円玉等の5の固まりの等価関係が分かり, 金額に合った硬貨をそろえたりノートにまとめたりすることができる。
(数学的な考え方)
- 金額に合った硬貨をそろえられるおもしろさを体感し, 生き生きと活動することができる
(関心・意欲・態度)

3 指導観

- 本単元は, 硬貨の等価関係の理解を重点的にねらった学習として考え出した活動である。等価関係は10を固まりとする等価と, 5を固まりとする等価があるが, 本単元は5の固まりの等価の理解をねらって内容を構成している。活動場面として, ①品物カードを選んでの「ノート作り(プリント)」②選んだカードの金額を説明する「紹介カード作り」③紹介カードの発表という3つの活動場面が考えられる。①「ノート作り」の活動は, 品物カードに指示された金額を模擬お金を使ってノートにそろえ, 金種の内訳をかく活動である。この活動は, 金種を識別し, 位取りを理解することに役立つと考えられる。②の「紹介カード作り」の活動は, 具体物・半具体物を離れ, 理解したことを抽象化して文レベルで表現する力を身に付けることに役立つと考えられる。また, それぞれの課題を2時間セットで組み合わせており, 前時の金額を等価関係を使って違う金種で表現するようになっている。このことにより, 特定の金額を2通りの方法で表現する経験を積むことになり, 等価関係の理解が進むと考えている。金銭のしくみの理解をねらいとしている指導のステップは, 現段階では次のようなステップを考えている。

- 1 硬貨(お札)の種類を弁別できるとともに, 価値の大小のイメージをもてる。
- 2 買う物の値段を読み取り, 必要な金額を取り出すことができる。
- 3 等価関係が分かり, 同一値段の金額を複数の方法で並べられる。
- 4 おつりの必然性を認識し, おつりを計算できる。
- 5 複数の買い物をして合計金額を計算し, 必要な金額を取り出せる。
- 6 買い物をして合計金額を知り, その金額をほどよく越える金額を提示し, おつりを受け取ることができる。

本単元の具体的な指導内容は, 上記の3の段階(等価関係が分かる)を重点的に取り扱う。いろいろな金額の出し方を身に付けることは, 生活場面に生きる金銭処理の技能を習得して行く上で有意義であると考えられる。

- 本学級は, 2年生1名, 3年生1名, 4年生1名, 6年生の1名の計4名の在籍である。児童たちは, これまでの学習の中で, 品物カードを選び, 値段を読み取って現金をそろえ, 教室の模擬店で買い物をし, ノートにまとめるという活動(「買い物算数絵本を作ろう」)を経験してきている。また, 調理活動の準備の中で材料の買い物に出かけたり, 栽培活動の際, 野菜の苗の買い物をする中で実物のお金に慣れ親しんできている。しかし, 同一の硬貨の値段であれば, ちょうどのお金を取り出せるもの, 硬貨が2種類3種類の値段となると, まちがいが多くなる傾向がある。この実態から感じることは, 硬貨の識別をしてお金をそろえるのではなく, 金額の数字, つまり個数によってお金をそろえているのではないかという懸念である。このことから, 厳密には硬貨の識別や位取りによる組み合わせのルールがまだ理解できていないと考えられる。「3等価関係」の段階を早めに経験させることはこの実態に新しい認識を与えることになり, 位取りの認識の変化が期待できると考える。各児童の実態は, 次の通りである。

児童	学習へ取り組む態度	数や計算に関して	お金に関して
2年男子 A児	○ めずらしいこと、初めてのことには、意欲的な面があるが、繰り返しによる慣れがあったり、めんどろさが伴うと、意欲を失う傾向にある。	○ 100までの数字カードを並べることができる。10までのたし算とひき算が数字のみで計算できるが問題によってはまだ指を使って答えを導くこともある。	○ 1円玉と10円玉と100円玉の硬貨が識別可能。 ○ 1円玉と10円玉と100円玉の金額が個別であれば表現できる。 ○ 2種類の硬貨を組み合わせた金額がの理解できる。
3年男子 B児	○ おしゃべりが見られるが、一度課題に取り組み始めると黙って最後までやりとげる。自分の理解の仕方に固執し、指導者が身につけて欲しい方法が入りにくい。	○ 繰り上がりのたし算、くり下がりのひき算を身につけた。10を固まりとして考える方法より、数え引きや数え足しのような方法で計算する。20を越えて100までの数となると、まだイメージがともなわない段階である。	○ 1円玉、10円玉、100円玉が1種類であればそろえられるが、2種類、3種類となるとできるまでに時間がかかる。つまり、確かな識別はできていない。数(個数)をそろえている段階と思われる。
4年男子 C児	○ とりかかりに時間がかかる日も見られる。絶えず声かけが必要である。褒められると意欲的に取り組める。集中力が課題である。	○ くり上がりのたし算は不安定な段階である。くり下がりの2桁のひき算の筆算を身につけた。学習の過程では半具体物が欠かせないが、初期の数のしくみの理解が十分でないため確実な理解が難しい。	○ 1円玉と10円玉と100円玉の硬貨が識別可能。 ○ 1円玉と10円玉と100円玉の金額が1種類であれば表現できる。 ○ 2種類の硬貨を組み合わせると、できたり間違ったりで確かな理解ではない。
6年男子 D児	○ 難しいとき、やりたくないときは、はっきりとそのことを表明する。慰められると最後まで取り組む。集中して取り組める。	○ 具体物や半具体物がなくても理解できる力がある。かけ算の筆算(3桁×1桁)、わり算(3桁÷1桁)、長さ(cm・mm)なども1学期に身に付けてきている。	○ 1円玉と10円玉と100円玉の3種類を組み合わせても金額を表現できる。 ○ 1円玉5個と5円玉の等価関係が理解できている。

○ 本単元の指導にあたっては、等価関係の理解に重点を置くために、2時間セットでそれぞれの時間に同一金額課題を提示する構成にした。例えば、前時に80円等を10円玉のみでそろえる課題に取り組ませ、本時では50円玉と10円玉で80円等を表現するという課題である。2時間セットで等価関係の理解が期待できるため、毎時の始めに前時の学習内容をしっかりと想起させることを心がけたい。そのことで金種の違いの比較が明確になると考えている。また、3つの活動場面を設定している。①品物カードを選んでの「ノート作り」は、金額に合った半具体物である模擬硬貨を自分で選び貼り付ける活動になっている。この活動により金種の認識が進むとともに、ノートに貼り付ける位置を自己決定させることで位取りの理解も進むと考えている。②「お金紹介カード作り」は、半具体物から離れ、品物写真の金額を言葉や文で説明する活動である。理解した金額の金種を頭でイメージして、抽象化できる力が付くことを期待している。③「お金紹介カード」の発表は、自分の課題達成を喜び、友達に伝えることを通して自信をもつと共に、金銭処理の理解にさらなる意欲をもつことを期待している。

4 単元計画（全9時間）

配時	目 標	主な算数的活動	ノートの視点
1	<p>○ 「お金紹介カードを作ろう」の活動内容を理解できる。</p> <p>・活動の流れや活動の場を知り見通しをもつことができる。</p> <p>[A 児] 10円玉と5円玉で10円～35円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 1円玉で6円～10円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 10円玉と1円玉で15円～20円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 100円玉と50円玉で100円～350円を表現できる。</p>	<p>・試しの「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができる。</p>
2	<p>[A 児] 5円玉で10円～35円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 1円玉と5円玉で6円～10円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 10円玉と5円玉と1円玉で15円～20円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 50円玉で100円～350円を表現できる。</p>	<p>・「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができる。</p> <p>2通りの方法があることを理解できている。</p>
3	<p>[A 児] 10円玉で50円～100円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 10円玉と1円玉で15円～20円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 10円玉と5円玉で15円～35円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 100円玉で500円～1000円を表現できる。</p>	<p>・「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができる。</p>
4 本時	<p>[A 児] 50円玉と10円玉で50円～100円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 10円玉と5円玉と1円玉で15円～20円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 5円玉で15円～35円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 500円玉と100円玉で500円～1000円を表現できる。</p>	<p>・「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができる。</p> <p>2通りの方法があることを理解できている。</p>

配時	目 標	主な算数的活動	ノートの視点
5	<p>[A 児] 100円玉と50円玉で100円～350円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 10円玉と5円玉で10円～35円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 10円玉で、50円～100円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 千円札と100円玉で1500円～2000円を表現できる。</p>	<p>・「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができている。</p>
6	<p>[A 児] 50円玉で100円～350円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 5円玉で10円～35円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 50円玉と10円玉で150円～200円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 千円札と500円玉と100円玉で1500円～2000円を表現できる。</p>	<p>・「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができている。</p> <p>2通りの方法があることを理解できている。</p>
7	<p>[A 児] 100円玉で500円～1000円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 10円玉で50円～100円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 100円玉と10円玉で150円～200円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 千円札と500円玉で1000円～3500円を表現できる。</p>	<p>・「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができている。</p>
8	<p>[A 児] 500円玉と100円玉で500円～1000円を表現することができる。</p> <p>[B 児] 50円玉と10円玉で50円～100円を表現することができる。</p> <p>[C 児] 100円玉と50円玉と10円玉で150円～200円を表現することができる。</p> <p>[D 児] 500円玉で1000円～3500円を表現できる。</p>	<p>・「ノート作り」での模擬硬貨の貼り付け活動。</p>	<p>金額に合った模擬硬貨の数と、貼り付け位置を理解できている。</p> <p>貼り付けた模擬硬貨の内訳を、正確にかくことができている。</p> <p>2通りの方法があることを理解できている。</p>
9	<p>○ これまでの活動をふり返り、自分のあゆみを喜ぶことができる。</p>	<p>・自分の「お金紹介カード」を発表する活動。</p>	<p>表紙をつけて自分のノートをとじ、一つの作品として整理できる。</p>

5 本時目標

- 活動の手順を理解し、「お金紹介カードを作ろう」の3つの活動に進んで取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 前時の課題と比較しながら、等価関係を意識して品物の値段に合った金額を取り出し、ノートにまとめたり、「お金紹介カード」作りをしたりすることができる。(数学的な考え方)
各児童の金額課題は、次のようになっている。
 - 〔A児〕50円玉と10円玉で、50円～100円を表現することができる。
 - 〔B児〕10円玉と5円玉と1円玉で、15円～20円を表現することができる。
 - 〔C児〕5円玉で、15円～35円を表現することができる。
 - 〔D児〕500円玉と100円玉で、500円～1000円を表現できる。

6 本時指導の考え方

【考える子どもの姿】

本学級児童は前時まで、《ノート作り》《お金紹介カード作り》《カードの発表》の3つの活動を3回経験している。活動の流れにはすっかり慣れ、見通しをもって取り組んでいると思われる。

本時は、等価関係理解のためそれぞれに新しい金種の組み合わせが課題になる場面である。前時とは異なる金種の組み合わせ課題に直面するため、不安を感じる児童も予想される。そこで、本時では活動にとまどっている児童、あるいはまちがっている児童には、モデル提示をするなどして躊躇なく「教える」という立場をとりたいと考える。これまでも自分で考えても、迷いがあったり分からなかったりするときは、隣の児童のできばえを覗き、それに従う姿も見られた。本時においても、その行為を認めると共に、「いっしょに考える」という立場で子どもの理解を確かなものにしたと考える。《お金紹介カード作り》の活動は、《ノート作り》で理解した金額の金種と個数を抽象化して言葉や文で表現する活動である。金額を文で表現する経験はこれまで多くはない。新しい金種の組み合わせが課題になることで、うまく表現できないことも予想される。ふり返って「ノート」を見て金種を確かめさせて再度表現させたり、いっしょに言葉や文を考えるなどの手だてをとりたい。《カードの発表》の活動は、児童は好んで取り組む傾向にある。言い間違いやひっかけを許容し、最後まで発表できたことを賞賛したいと考えている。

【算数的活動】

本時の半具体物を使う算数的活動は《ノート作り》の活動である。これまでの《ノート作り》では、模擬硬貨の貼り付け位置(位取り)が間違っていたり、数え間違いがあったりした。本時では位取りを中心に観察し、間違いがあれば「児童と共に模擬硬貨を数える」「何円硬貨がいっしょに確かめる」という姿勢で、等価関係の理解を図るため意味ある活動にしたいと考える。特に、気持ちの急ぐC児については、数え間違いが起きる傾向にある。「ゆっくり数えて…」「しっかりのりをつけよう」などの声かけを心がけたい。

7 準備

教師：プリントノート、 模擬硬貨、 品物カード \square 大、 品物カード \square 小、 お金紹介カード
児童：のり

8 本時の展開 (4/9)

過程	学 習 活 動 と 内 容																			
つ か む ・ 見 通 す ／	<p>1 前時の学習を想起し、本時の学習のめあてをつかむ。……「お金紹介カードを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 児: 10円玉5こを50円玉で表す。 ・ B 児: 1円玉5こを5円玉で表す。 ・ C 児: 10円玉を5円玉2こで表す。 ・ D 児: 100円玉5こを500円玉で表す。 																			
	A 児	B 児																		
つ く る ／	<p>3 「品物カード」を選び、その金額を「ノート」と「お金紹介カード」に表す。</p> <p>① 「ノート」に模擬硬貨を貼り付けて、金額を表現する。</p> <div data-bbox="363 680 663 813" style="text-align: center;"> </div> <table border="1" data-bbox="285 835 775 1393" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">百</th> <th style="width: 33%;">十</th> <th style="width: 33%;">一</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td style="text-align: center;"> </td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 「お金紹介カード」をかく。</p> <div data-bbox="316 1518 603 1821" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="text-align: center;"> </div> <p>カレーを買いました。50円が1こと10円が1こで60円でした。</p> </div>	百	十	一		 			6	0	<p>3 「品物カード」を選び、その金額を「ノート」と「お金紹介カード」に表す。</p> <p>① 「ノート」に模擬硬貨を貼り付けて、金額を表現する。</p> <div data-bbox="979 672 1163 797" style="text-align: center;"> </div> <table border="1" data-bbox="932 835 1364 1393" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">百</th> <th style="width: 33%;">十</th> <th style="width: 33%;">一</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 「お金紹介カード」をかく。</p> <div data-bbox="946 1518 1278 1821" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="text-align: center;"> </div> <p>プリンをえらびました。10円が1こと、5円が1こと1円が3こで18円でした。</p> </div>	百	十	一			 		1	8
百	十	一																		
	6	0																		
百	十	一																		
	1	8																		
ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①②を繰り返す。 <p>4 できあがった「お金紹介カード」を発表し、お互いに課題達成を認め合う。</p>																			

学 習 活 動 と 内 容

支 援 ・ 指 導

2 活動の手順を確かめる。

- 説明を聞いて活動内容と場の変化の見通しをもつ。
 - ① 品物カードを選び、ノートに模擬硬貨を貼り付ける
 - ② 「お金紹介カード」に文でかく。(①②を繰り返す)
 - ③ 「お金紹介カード」を発表する。

- ※ 本時学習の見通しをもたせる。
- ※ 活動内容と場の変化の説明により、活動の流れをつかませる。



C 児

D 児

3 「品物カード」を選び、その金額を「ノート」と「お金紹介カード」に表す。

- ① 「ノート」に模擬硬貨を貼り付けて、金額を表現する。




百	十	一
		
	2	5

3 「品物カード」を選び、その金額を「ノート」と「お金紹介カード」に表す。

- ① 「ノート」に模擬硬貨を貼り付けて、金額を表現する。




千	百	十	一
			
	8	0	0

- ※ 前時のノートやカードを提示し活動のイメージを確かにする。
- ※ 児童の主体性を育てるため、どんな品物カードを選ぶか自己決定を促す。

- ※ 値段通りの模擬硬貨の貼り付けができてきているか、振り返りを促したり賞賛したりする。

- ※ 位取りを重点的に観察し、確かなノートができるようアドバイスする。

- ② 「お金紹介カード」をかく。



車のおもちゃを買いました。5円玉が5こで25円でした。

- ①②を繰り返す。

- ② 「お金紹介カード」をかく。



しょうぼう車を買いました。500円玉が1こ 100円が3こで800円でした。

- ①②を繰り返す。

- ※ 金額を言葉や文で表現できない場合は「ノート」を再度確かめさせたり、書き始めを与えたりする。

- ※ 1人「紹介カード」一枚ずつ発表を要求する。発表が滞る場合は一緒にカードを読んで支援する。

4 できあがった「お金紹介カード」を発表し、お互いに課題達成認め合う。

4 できあがった「お金紹介カード」を発表し、お互いに課題達成を認め合う。